

青少年の体験活動の意義と実際

独立行政法人国立青少年教育振興機構
青少年教育研究センター 青木 康太郎

本講義のねらい

青少年の体験活動の現状や必要性、教育的意義について理解を深め、体験活動の企画や指導のポイントを学ぶことで、今後の教育活動に役立ててもらおう。

(演習) 1. 体験活動の実際

- (1) 自然の中で行う体験活動を体験する
- (2) 体験活動の意義を考える

(講義) 1. 今どきの子供たちの体験事情

- (1) 今の子どもたちの体験は、増えている？減っている？
- (2) 家庭の経済状況がもたらす子供の体験格差とは
- (3) なぜ、今の子供たちは体験不足と言われるのか

2. 豊かな体験がもたらす効能

- (1) 体験をよくしている子供ほど
- (2) 体験をよくしている子供は、なぜ学力が高く、自己肯定感が高いのか
- (3) 子供の成長にはどのような体験が有効なのか

3. 多様な体験活動を提供する青少年教育施設

- (1) 青少年教育施設の役割
- (2) 青少年教育施設の現状と課題
- (3) 青少年教育施設職員に必要な3つの能力

4. 体験活動の企画や指導のポイント

- (1) プログラムの企画とは
- (2) プログラムを立てる手順(考え方)
- (3) 体験学習の基本的な考え方
- (4) 体験活動の指導で大切にしたいこと

5. 今の子供に必要な体験を考えるために

- (1) 子供の体験事情の変化とその対応
- (2) “何を体験させる”のかではなく、“どう体験させる”のか
- (3) 豊かな心をはぐくむ体験づくりの視点

[主な参考文献]

- ・「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書(平成26年度調査)
- ・「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書
- ・「子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」[結果の概要]
- ・「平成27年度社会教育統計」
- ・「学校で自然体験をすすめるために 自然体験活動指導者養成講習会テキスト」